

資源米由来のごみ袋 「ライスレジン」の製作

東川町税務住民課 課長 朝倉 祥貴

2025年2月6日

目次

CONTENTS

1. はじめに
2. 「ライスレジン」って何？その特徴は？
3. 課題と解決のプロセス
4. 事業スケジュール
5. 成果品
6. 普及推進の活動
7. 実施効果、住民の反応
8. 北海道内の取組事例
9. 今後の展開
10. 最後に

はじめに

東川町はふるさと応援H（英知）プロジェクトを活用し資源米由来のライスレジンを使用した町指定のごみ袋を製作しました。

ねらい1

脱炭素化の実現

ねらい2

水稻作付面積の維持確保

ねらい3

農業所得の向上

**このごみ袋は、東川町の
お米(資源米)で作られています。**

このごみ袋は、東川町内の田んぼで育てた資源米(非主食用米)で作られた
バイオマスプラスチックを使用して作られています。
東川町のゼロカーボンシティの取組に貢献しています。

町民のみなさまがごみ袋を使用することで、こんな効果が期待できます。



温室効果ガス排出低減



石油資源の使用抑制



資源米生産による農業支援

ライスレジンって何？その特徴は？

日本発のお米の環境素材。政府備蓄米、古米、加工用米などのお米を、独自の技術でバイオマスプラスチックへとアップサイクルしています。

Point01

お米を原料としていること

Point02

日本発の技術によるバイオマスプラスチックであること（日本産の技術/素材）

Point03

地域で栽培したお米を原料の一部にできること（地元の廃棄米/地元の政府備蓄米）
（耕作放棄地での休耕田で資源米）

課題と解決のプロセス

課題1

- ごみ袋の製造原価を従来品と同等程度とすること

課題2

- ごみ袋のサイズと規格の適正化

解決1

- ごみ袋の規格を5種類（10ℓ、20ℓ、25ℓ、30ℓ、40ℓ）から3種類（10ℓ、20ℓ、40ℓ）へ
- 1年間に使用する分を一括発注
- 以上により製造原価を従来品と同等程度とした

事業スケジュール

ファーストステップ

準備期間①

2023年11月

- ゴミ袋のデザイン製作

セカンドステップ

準備期間②

2023年12月～2024年3月

- ゴミ袋本体の製作

サードステップ

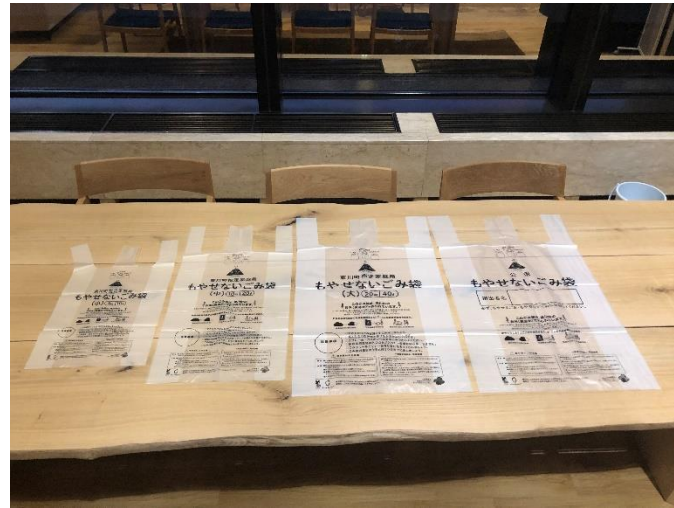
導入・運用開始

2024年4月以降

- ライスレジングみ袋に順次切り替え

成果品

資源米「ライスレジン」活用の町指定ごみ袋



普及推進の活動

1. 2024年4月17日～5月31日 複合交流施設せんとぴゅあⅡで展示
2. 2024年9月7日 カーボンニュートラルフェスタで展示・体験



実施効果、住民の反応



従来品



ライスレジンごみ袋



ライスレジンごみ袋の導入により

■ 実施効果

脱炭素社会への貢献（従来品と比較して12.5%程度の脱炭素化）
新規需要米の開拓と水稻作付の維持と継続

■ 住民の反応

ごみ袋の切替は理解がある一方で文字色でごみ袋の種類を区分しているため間違えやすいと指摘あり

北海道内の取組事例

事例 1

コープさっぽろ全店舗
レジ袋、先割スプーン、
デザートスプーン

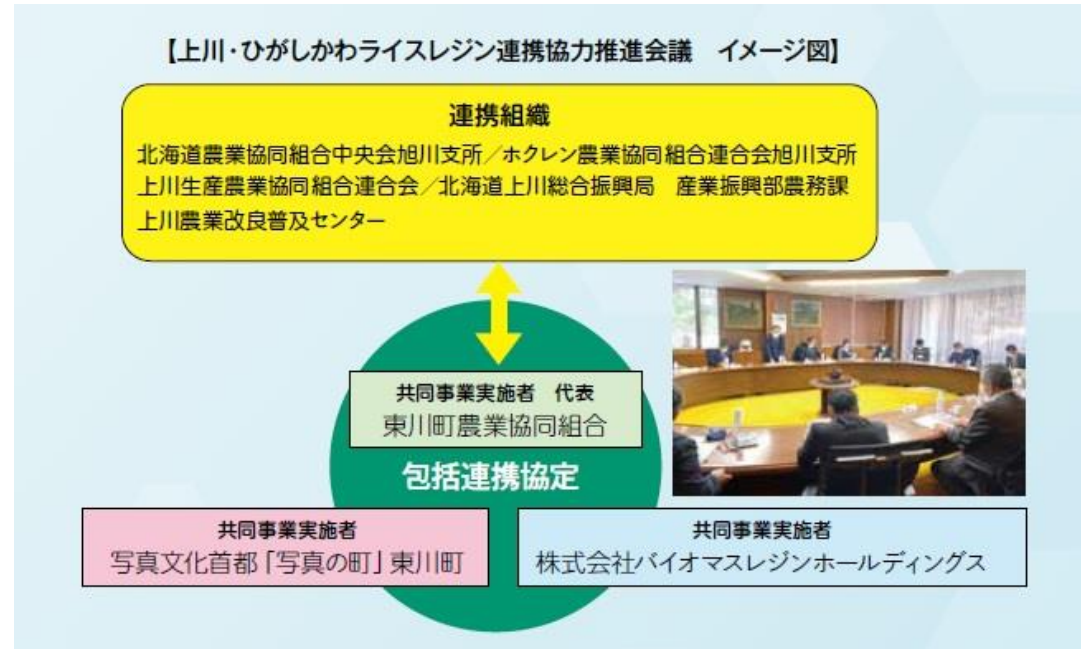
事例 2

RISING SUN ROCK FESTIVAL
キャンペーンバッグ
(オリジナルごみ袋)

事例 3

さっぽろ雪まつり
公式記念品
マグネット

今後の展開



目標01

資源米の生産振興、農業所得の確保

目標02

ライスレジンは商品の導入検討

目標03

広域的な普及、導入支援

最後に

町の地域課題に対し、ふるさと応援H（英知）プログラムがきっかけとなり、解決に向けて新たなチャレンジの一步を踏み出すことができました。

このプログラムに関係された皆様に感謝いたします。

この出会いをスタートに私達東川町はこれからも直面する社会課題に向き合い持続的な発展に向けて様々な取り組みを進めていきます。

ご清聴ありがとうございました。